平成 30 年度琉球大学法科大学院
Ａ日程（甲方式）　未修者コース　入試問題

小　論　文

平成２９年８月２７日（日曜日）
１０時００分～１１時００分（60 分）

注意事項
　試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いのないように受験してください。

１　この試験では、**問題冊子１部、解答用紙１枚、下書用紙１枚**を配布します。
　　試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
２　**この試験の解答として提出された小論文は、面接の際の資料として用いられます。**
　　小論文に対する評価は、面接試験の得点の中で評価されます。
３　試験開始後、問題の部分に印刷不鮮明、汚損等があれば直ちに申し出てください。
４　解答は、必ず解答用紙に記入してください。解答に用いたすべての解答用紙の所定欄に、受験番号と氏名を記入してください。
５　黒色または青色であれば筆記用具は問いません。ただし、鉛筆書きの場合は文字が薄くならないように十分注意してください。
６　試験開始後は、途中退席できません。用便を希望する際は手をあげてください。
７　試験終了後、解答用紙を回収するので、指示があるまで席を立たないでください。
　　配布した解答用紙は、書き損じや未使用のものも含めて、すべて回収します。
　　問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。
８　その他は、すべて監督者の指示に従ってください。

問題

次の**【文章】**を読んで、**〔設問〕**に答えなさい。

【文章】

（文章については、著作権の関係で、当Webページには掲載しておりません。）

《以下略》

（施光恒「グローバル化とナショナリズム①」日本経済新聞平成 29 年 6 月 13 日付け朝刊より抜粋）

※エマニュエル・トッド（Emmanuel Todd　1951～）　フランス国立人口学研究所（INDE）に所属する。人口統計による定量化と家族構造に基づく分析で知られる。

〔設問〕

エマニュエル・トッドがいうように、先進諸国の人々に「グローバル化疲れ」が広がっているといえるか。またそうだとすれば、今後の世界はナショナルな力に頼らざるを得ないというべきであるか、あなたの考えを 1,000 字以内で述べなさい。

以　上

Ａ日程小論文試験問題出題趣旨（公表用）

本問ではまず、先進諸国の人々に「グローバル化疲れ」が広がっているといえるかが問われている。**【文章】**が指摘するように、グローバル化の進展により、国境や国籍にとらわれない平和な世界が実現し、また自由貿易を通して人々が豊かさを享受することができると一般に理解されてきたと思われるが、格差の拡大、移民の増加、民主主義の機能不全、エリート層の変質など多くの不安定要因を世界にもたらしたのではないか（その結果、人々に「グローバル化疲れ」が広がっているのではないか）についても考えてみなければならない。すなわち、資本の国際的移動が自由になることにともない、各国の政府が海外からの投資を呼び込むため、国民一般の声よりもグローバルな投資家や企業を優先した政策をとるようになると、政治不信を招き民主主義の機能不全につながることになりかねない。またエリート層も、その存立基盤が地域社会や国ではなくグローバル市場に変化することにより、地域住民や国民との連帯意識に疎く、公共の問題に無関心になりがちである。グローバル化の功罪を的確に指摘する必要があろう。

次に、「グローバル化疲れ」が広がっているとすれば、今後の世界はナショナルな力に頼らざるを得ないかについてである。確かに、従来のナショナリズムには自国中心主義的な偏狭な考え方となってしまうおそれがある。しかし、ナショナルな考え方には自由で平等な民主的社会の実現を促す働きもある。例えば、平等の実現のために必要不可欠な福祉政策は人々の間に強い国民意識がないと実現しない。グローバル化により国民の相互扶助意識が希薄化すれば、再分配による格差是正も困難になる。「地球人」といった国境を越えた帰属意識が一朝一夕には生じないことに鑑みると、グローバル化と平等とは容易には両立しないと思われる。ナショナルな考え方をすべて否定するのではなく、自国の基準や文化を他国には強制しない、他者も尊重する公正なナショナリズムに目を向けるべきであろう。グローバル化とナショナルな力との関係について冷静沈着に検討を加えなければならない。